

# 広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の平成30年度における目標達成状況等について

## 1 計画の概要

### (1) 策定年月

平成27年3月

### (2) 計画の概要

国の法律・計画や広島県の「広島県廃棄物処理計画」、本市の「広島市総合計画」、「広島市環境基本計画」等との整合を図り、長期的・総合的な視点のもと、「ゼロエミッションシティ広島の実現」を基本理念として、本市における一般廃棄物処理を計画的に推進するための方針を示している。

### (3) 基本理念・基本方針

**【基本理念】：『ゼロエミッションシティ広島の実現』**  
 本計画に掲げる施策を市民・事業者・行政が一体となって更に推進し、資源が循環して天然資源の消費が抑制され、環境への負荷が低減される美しく魅力あふれる都市、ゼロエミッションシティ広島の実現に向けた挑戦を続けていきます。

- 【基本方針1】：市民・事業者・行政が一体となったごみの減量とリサイクルの推進
- 【基本方針2】：安定的なごみ処理体制の確保
- 【基本方針3】：分別区分・収集運搬体制の再構築
- 【基本方針4】：コストの削減
- 【基本方針5】：ごみのないきれいなまちづくりの推進

### (4) 計画期間

平成27年度～令和6年度

(前期：平成27年度～令和元年度、後期：令和2年度～令和6年度)



### (5) 減量目標

区分	目標	基準年度	中間目標年度	最終目標年度
		平成25年度	令和元年度	令和6年度
排出量	最終目標年度（令和6年度）までにごみ総排出量を <u>337,000t/年（約1割削減）</u> に 1人1日当たりのごみ排出量を <u>785g/人日（74g削減）</u> に	37.2万t (859g/人日)	35.9万t (826g/人日)	33.7万t (785g/人日)
焼却量	最終目標年度（令和6年度）までに焼却量を <u>285,000t/年</u> に	30.4万t	29.8万t	28.5万t
埋立量	最終目標年度（令和6年度）までに埋立量を <u>40,000t/年（約3割削減）</u> に	5.6万t	4.9万t	4.0万t

### (6) 進行管理

計画を着実に推進するため、施策の実施状況及び目標の達成状況を毎年度把握し、PDC Aサイクル（計画（Plan）・実行（Do）・点検（Check）・見直し（Action））に基づき、計画の適切な進行管理を行うとともに、施策の実施状況や効果等を評価し、ごみ排出量等の推移や社会情勢の変化などを踏まえた上で、新たな施策の導入についても検討する。

## 2 減量目標の達成状況

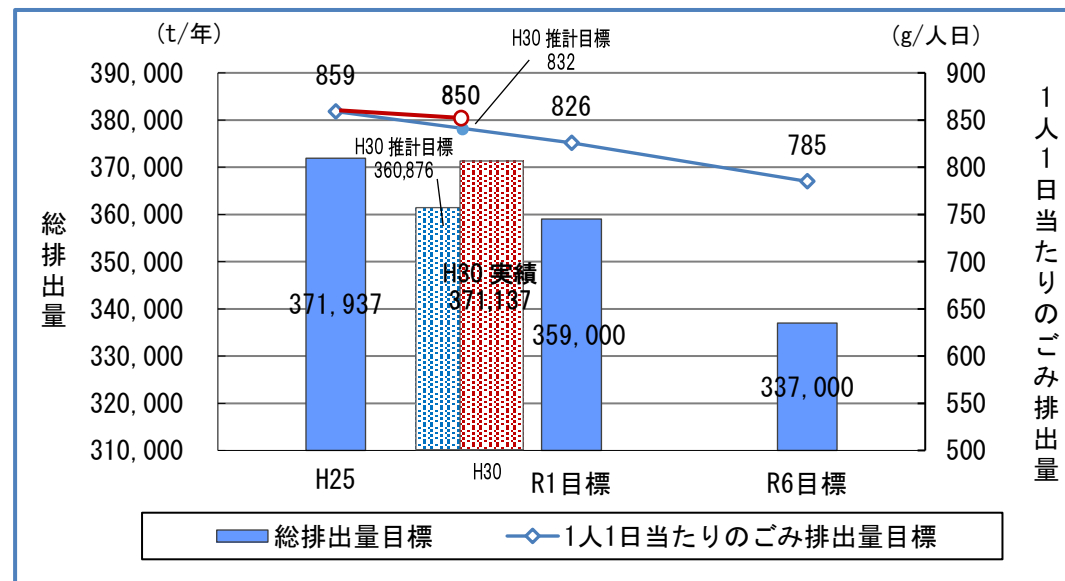
項目	平成25年度実績 (基準年度) (A)	平成30年度実績 (B)	平成30年度目標 (C) ※ <sup>1</sup>	令和元年度目標値 (中間目標)	令和6年度目標値 (最終目標)	目標達成率 (B-A)/(C-A) × 100 ※ <sup>2</sup>
1年当たりのごみ総排出量(t)	371,937	371,137	360,876	359,000	337,000	7.2%
家庭ごみ(t)	214,681	208,231	211,428	—	—	—
事業ごみ(t)	155,424	161,338	147,616	—	—	—
都市美化ごみ(t)	1,832	1,568	1,832	—	—	—
1人1日当たりのごみ排出量(g/人日)	859	850	832	826	785	33.3%
1年当たりのごみ焼却量(t)	303,687	303,624	299,968 【293,732】※ <sup>3</sup>	298,000 【291,842】※ <sup>3</sup>	285,000	1.7% 【0.6%】
1年当たりのごみ埋立量(t)	55,859	58,168	48,940 【54,565】※ <sup>3</sup>	49,000 【54,315】※ <sup>3</sup>	40,000	△133.4% 【△278.4%】

※<sup>1</sup> 計画の目標値は、令和元年度（中間目標年度）及び令和6年度（最終目標年度）で設定しており、年度ごとに設定していないが、各年度に割り振って平成30年度目標を推計した。

※<sup>2</sup> 平成30年度目標値の推計値に対する減量幅で計算した目標達成率。基準年度より増加した場合の計算式は、「-(B-C)/(A-C)」。

※<sup>3</sup> 事業系プラスチック焼却化の実施時期を変更したことを加味して推計した目標値。

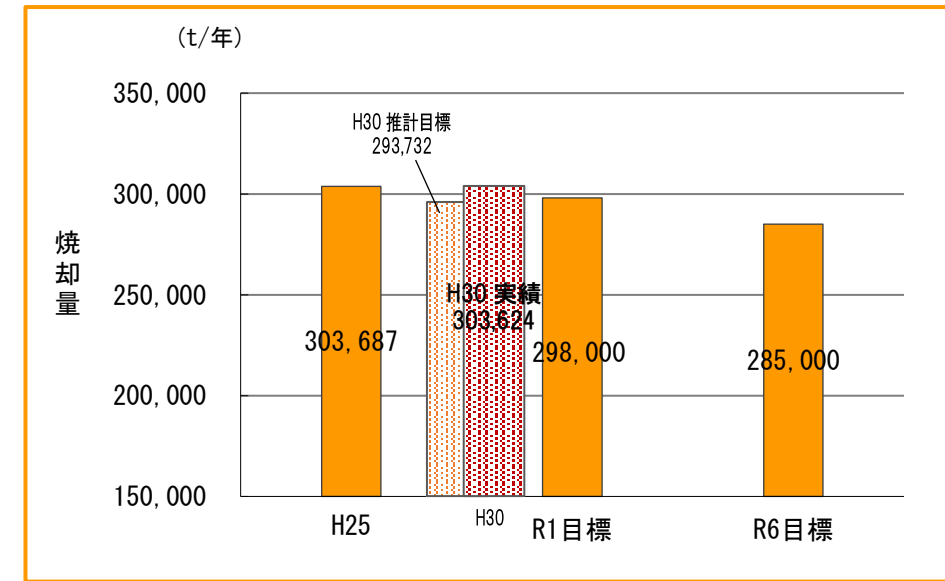
### ○ 排出量



#### 【達成状況】

- 平成30年度のごみ排出量は、目標値との比較では、平成30年度目標値の推計値 360,876 t に対して 10,261 t 多く、減量幅で計算した目標達成率は 7.2%
- 平成30年度の1人1日当たりのごみ排出量は、平成30年度目標値の推計値 832 g より 18 g 多く、減量幅で計算した目標達成率は 33.3%

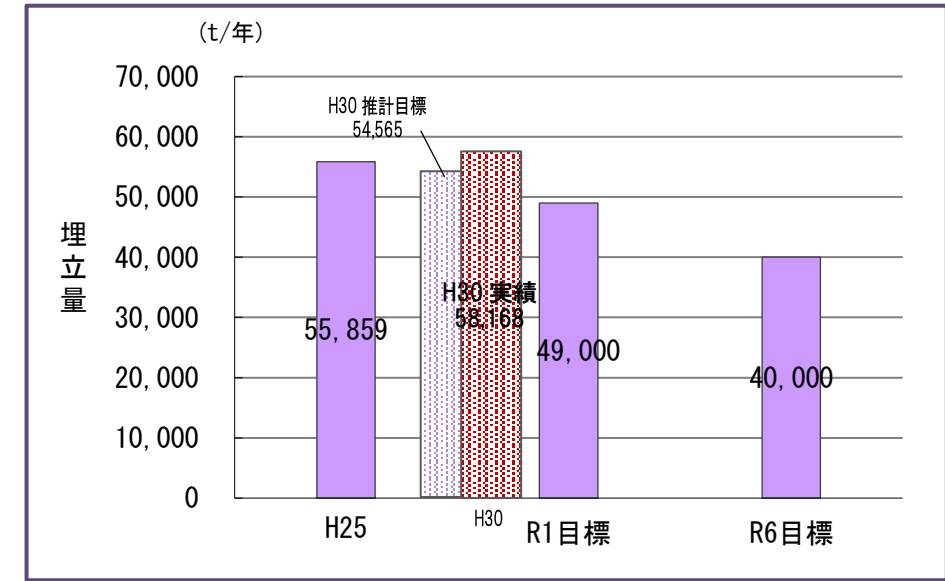
### ○ 焼却量



#### 【達成状況】

- 平成30年度の焼却量は、目標値との比較では、平成30年度目標値の推計値 293,732 t に対して 9,892 t 多く、減量幅で計算した目標達成率は 0.6%

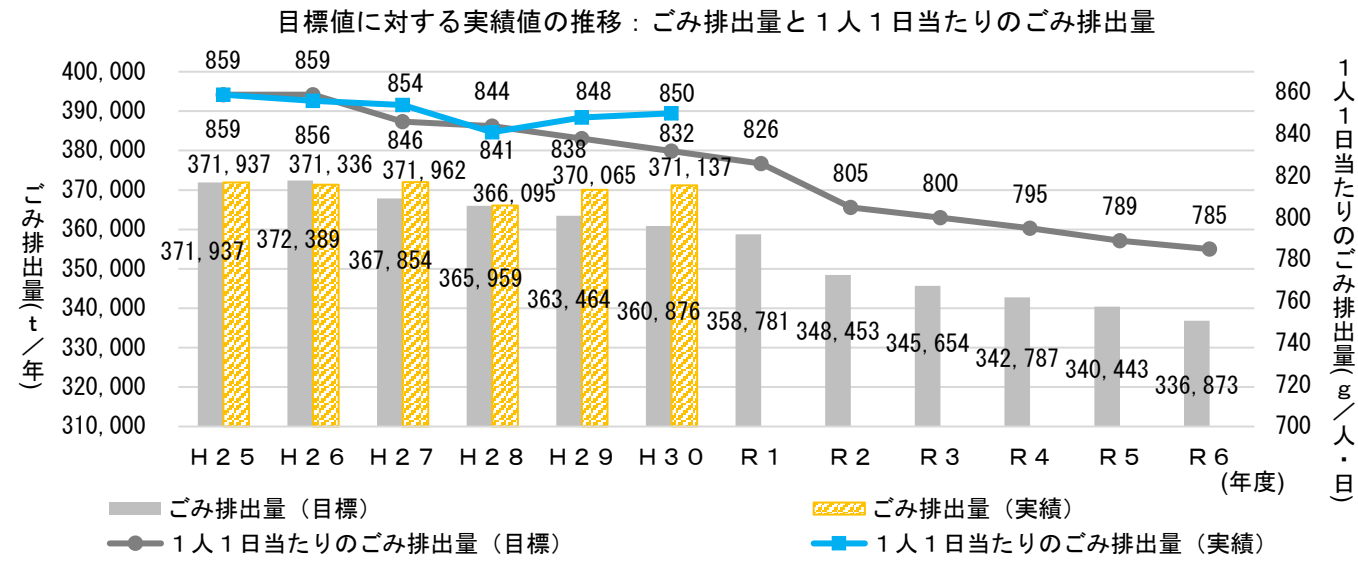
### ○ 埋立量



#### 【達成状況】

- 平成30年度の埋立量は、目標値との比較では、平成30年度目標値の推計値 54,565 t に対して 3,603 t 多く、減量幅で計算した目標達成率は △278.4%

### 3 排出量の状況



#### ○ 増減等の主な状況

##### ① 総排出量

- ・ 基準年度の平成25年度から平成28年度までは減少傾向であったが、平成29年度に増加に転じた。

##### ② 家庭ごみ排出量

- ・ 基準年度の平成25年度から平成28年度までは年々減少してきたが、平成29年度に増加し、30年度は微減となった。

##### <減少>

- ・ 可燃ごみは、年々減少しており、平成30年度は、基準年度である平成25年度の146,775tと比べると、8,766t少なく、6.0%減となった。
- ・ リサイクルプラは、減少傾向であり、平成30年度は、基準年度である平成25年度の17,936tと比べると、192t少なく、1.1%減となった。
- ・ その他プラは、減少傾向であり、平成30年度は、基準年度である平成25年度の5,377tと比べると、231t少なく、4.3%減となった。
- ・ 不燃ごみは、減少傾向であり、平成30年度は、基準年度である平成25年度の6,016tと比べると、208t少なく、3.5%減となった。

##### <増加>

- ・ ペットボトルは、年々増加しており、基準年度である平成25年度の2,153tと比べると、607t多く、28.2%増となった。
- ・ 大型ごみは、年々増加しており、基準年度である平成25年度の7,623tと比べると、2,386t多く、31.3%増となった。

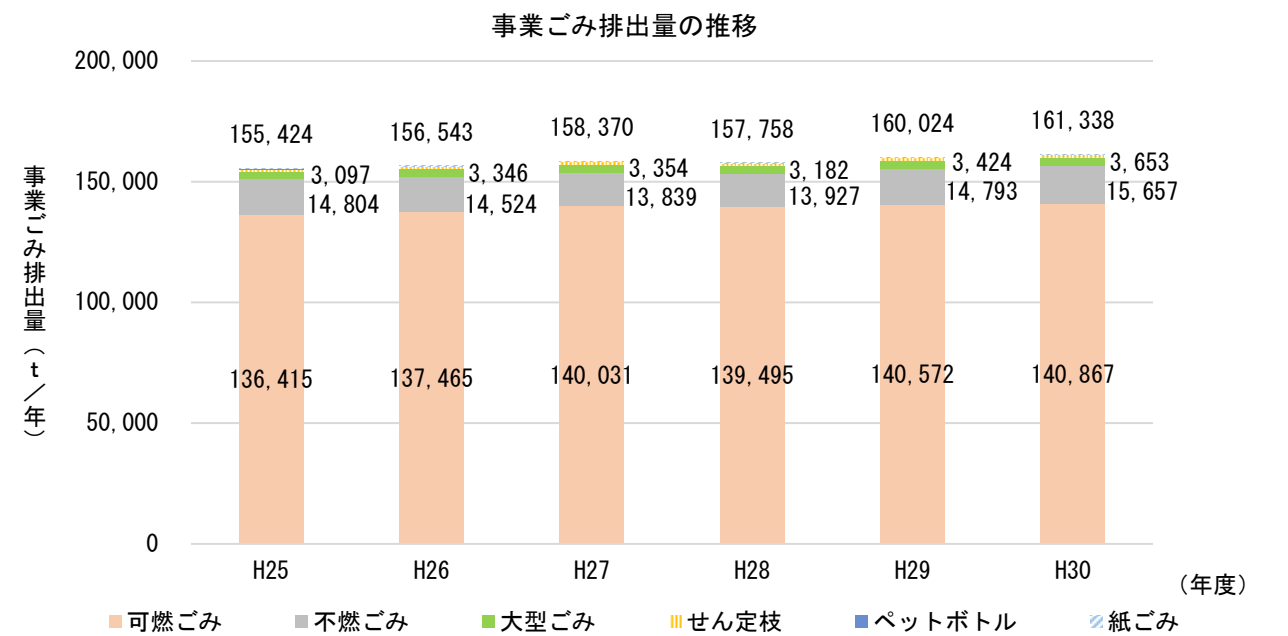
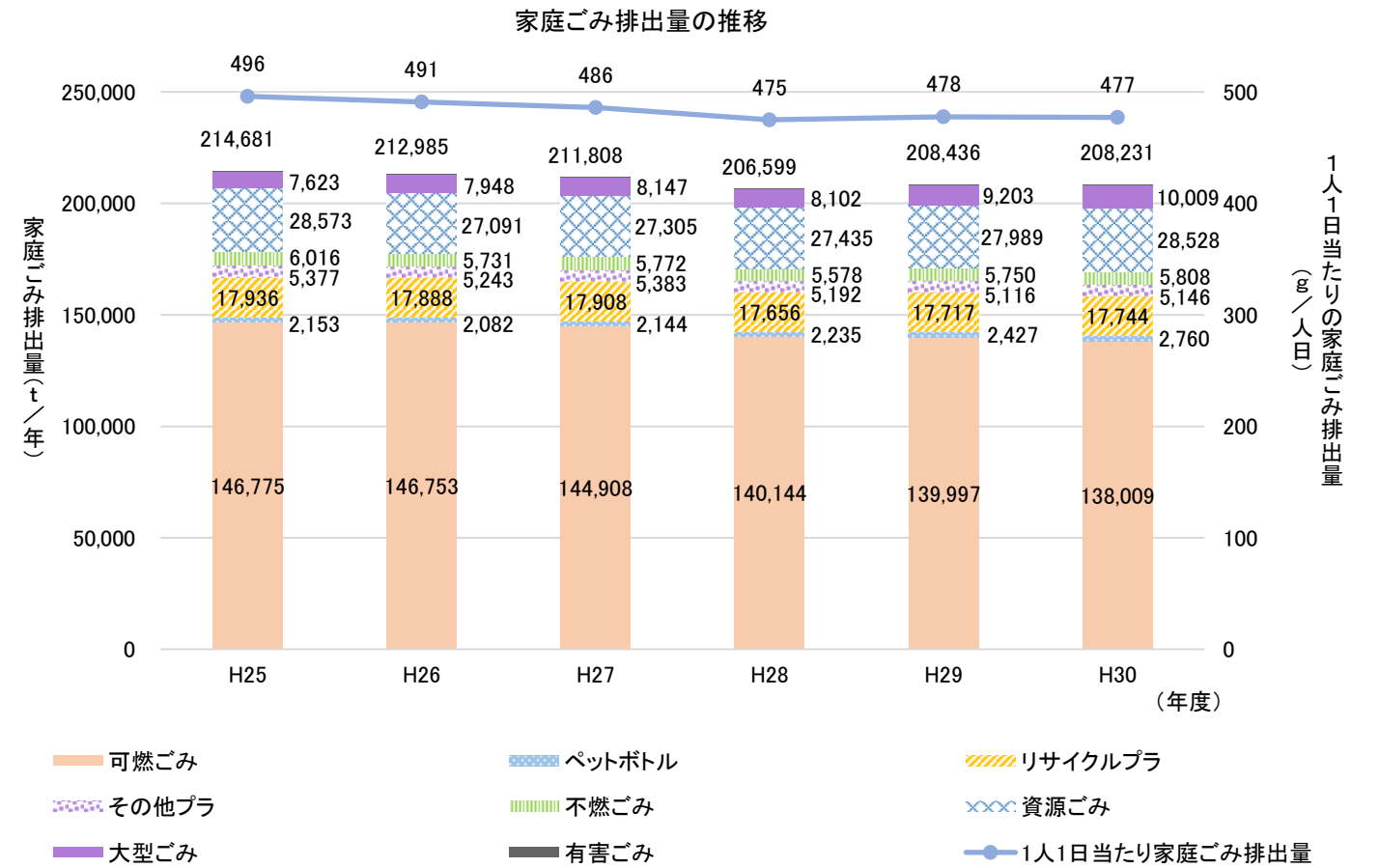
##### ③ 事業ごみ排出量

- ・ 基準年度の平成25年度以降、平成28年度を除き増加傾向である。
- ・ 可燃ごみは、増加傾向であり、基準年度である平成25年度の136,415tと比べると、4,452t多く、3.3%増となった。

#### ○ 目標未達成の主な要因

- ・ 家庭系大型ごみの自己搬入の増加  
→ 景気が回復傾向にあることに伴い、市民の消費支出が拡大したことによる増加が考えられる。
- ・ 事業系可燃ごみの増加  
→ 景気が回復傾向にあることに伴う、事業活動の活性化による増加が考えられる。  
また、産業分類別従事者数の変化、可燃ごみの組成分析調査結果から、医療・福祉系事業の拡大に伴う、汚れた紙ごみ増加の可能性が考えられる。

#### ○ ごみ種類別排出量の推移



#### 4 焼却量の状況



(t)

区分	平成25年度実績 (基準年度)	平成26年度 実績	平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 実績	増減
家庭ごみ	163,435	162,576	160,565	156,670	158,346	158,687	↓
事業ごみ	138,883	140,148	142,591	141,921	143,174	143,639	↑
都市美化ごみ	1,369	1,524	1,459	1,419	1,413	1,298	↓
計	303,687	304,248	304,615	300,010	302,933	303,624	↓

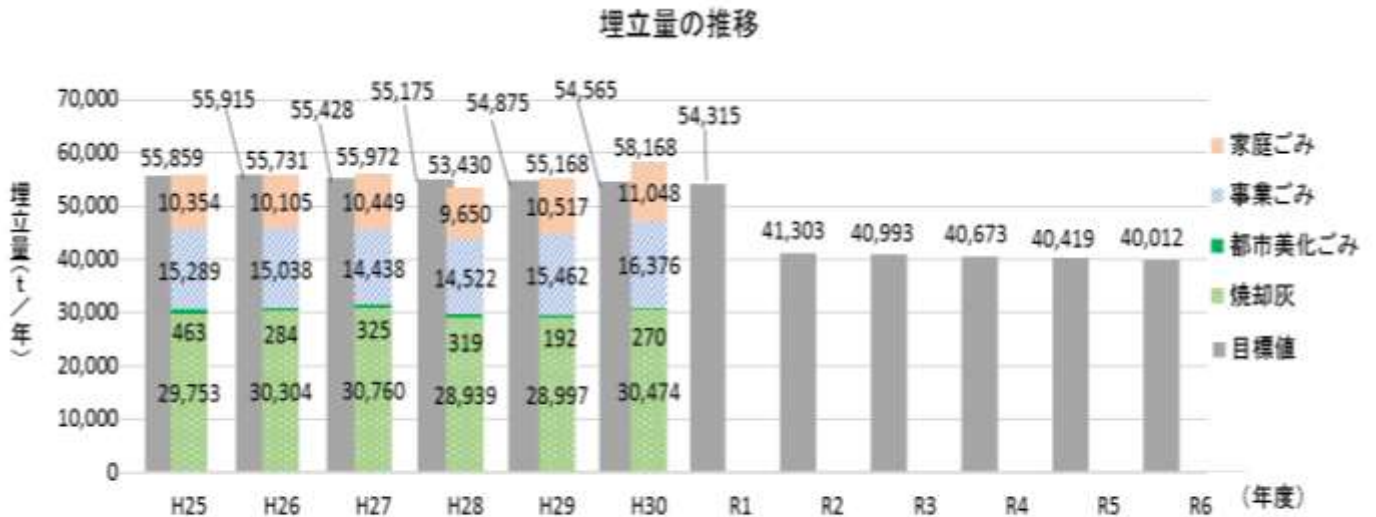
##### ○ 増減等の主な状況

- ・ 平成30年度の焼却量は、基準年度である平成25年度の303,687tと比べて63tの微減となった。
- ・ 平成30年度の家庭ごみ焼却量は、基準年度である平成25年度の163,435tと比べて4,748t減少した。
- ・ 平成30年度の事業ごみ焼却量は、基準年度である平成25年度の138,883tと比べて4,756t増加した。

##### ○ 増減の主な要因

- ・ 家庭系可燃ごみ及びその他プラの排出量が減少したことが、家庭ごみ焼却量が減少した要因と考えられる。
- ・ 事業系可燃ごみの排出量が増加したことが、事業ごみ焼却量が増加した要因と考えられる。

## 5 埋立量の状況



(t)

区分	平成25年度実績 (基準年度)	平成26年度 実績	平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 実績	増減
家庭ごみ	10,354	10,105	10,449	9,650	10,517	11,048	↑
事業ごみ	15,289	15,038	14,438	14,522	15,462	16,376	↑
都市美化ごみ	463	284	325	319	192	270	↓
焼却灰等	29,753	30,304	30,760	28,939	28,997	30,474	↑
計	55,859	55,731	55,972	53,430	55,168	58,168	↑

### ○ 増減等の主な状況

- ・ 平成30年度の埋立量は、基準年度である平成25年度の55,859tと比べて2,309t増加した。
- ・ 平成30年度の家庭ごみ埋立量は、基準年度である平成25年度の10,354tと比べて694t増加した。
- ・ 平成30年度の事業ごみ埋立量は、基準年度である平成25年度の15,289tと比べて1,087t増加した。

### ○ 増加の主な要因

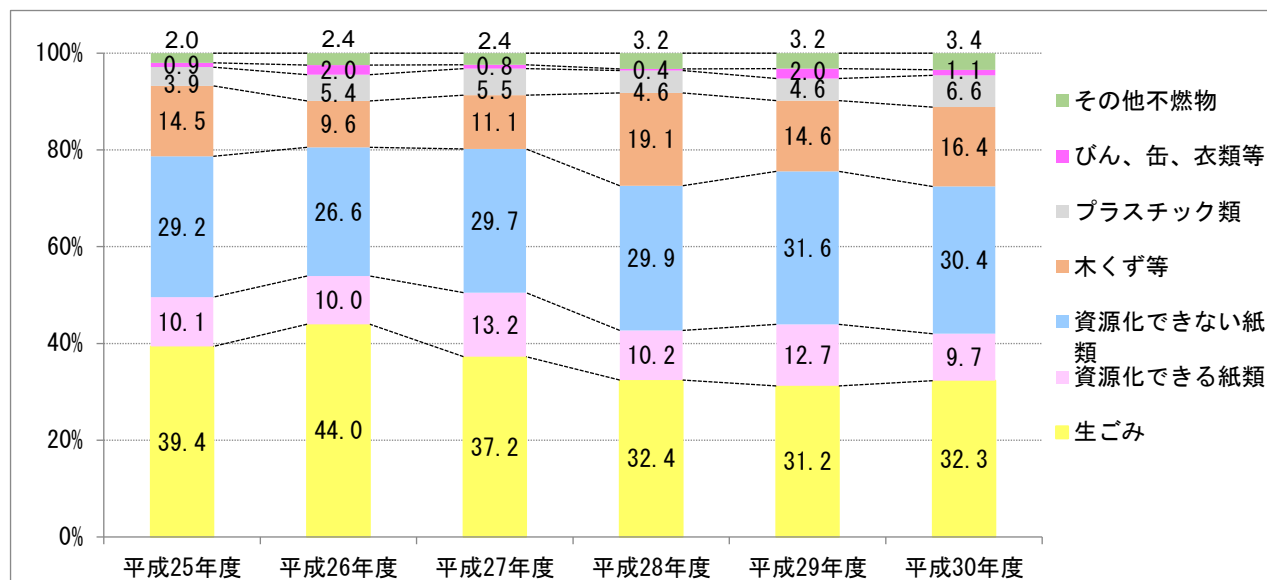
- ・ 家庭系大型ごみの自己搬入量増加に伴い排出量が増加したことが、家庭ごみ埋立量が増加した要因と考えられる。
- ・ 事業系不燃ごみ及び大型ごみの排出量が増加したことが、事業ごみ埋立量が増加した要因と考えられる。

(参考) 組成分析調査結果

○ 家庭系可燃ごみの組成分析結果の推移

年度によって増減はあるものの、各年度ともに紙類が全体の約4割を占めており、紙類のうちの約2～3割は資源化できる紙類であることについても大きな変化は見られなかった。

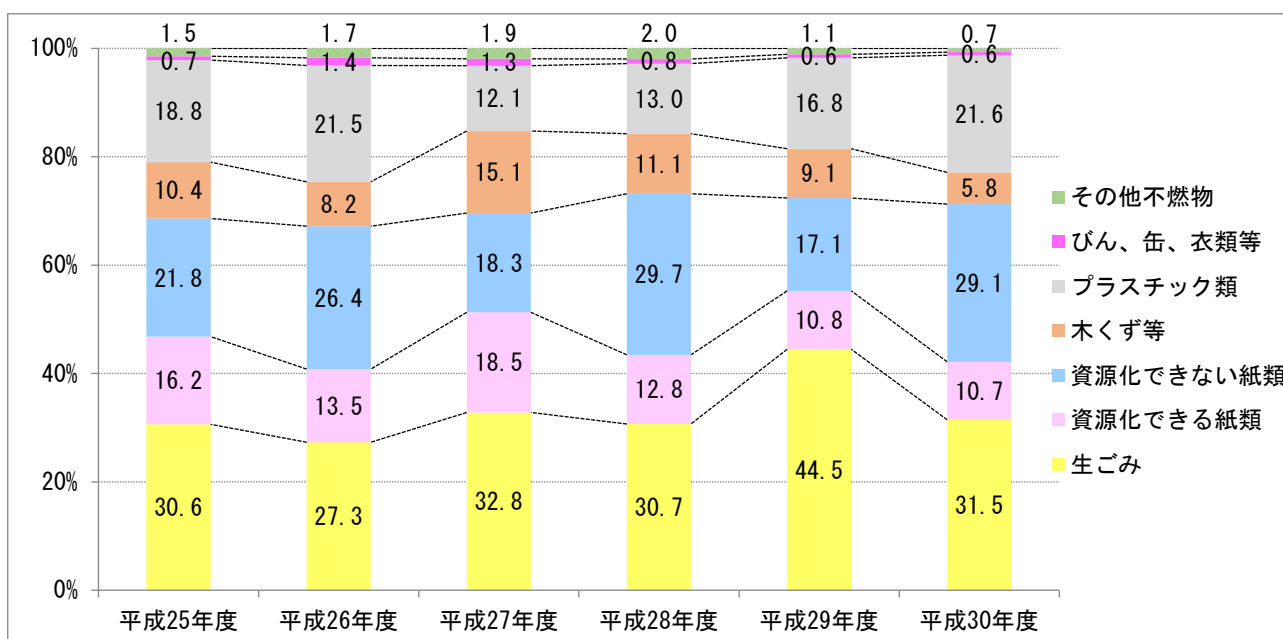
また、平成25年度には、生ごみが全体の約4割を占めていたが、減少傾向となり、平成30年度は約3割となっている。



○ 事業系可燃ごみの組成分析結果の推移

家庭系可燃ごみと同様、各年度ともに紙類が全体の約4割を占めているが、紙類に資源化できる紙類が約3～5割含まれており、家庭系可燃ごみよりも資源化できる紙類の割合が高い。

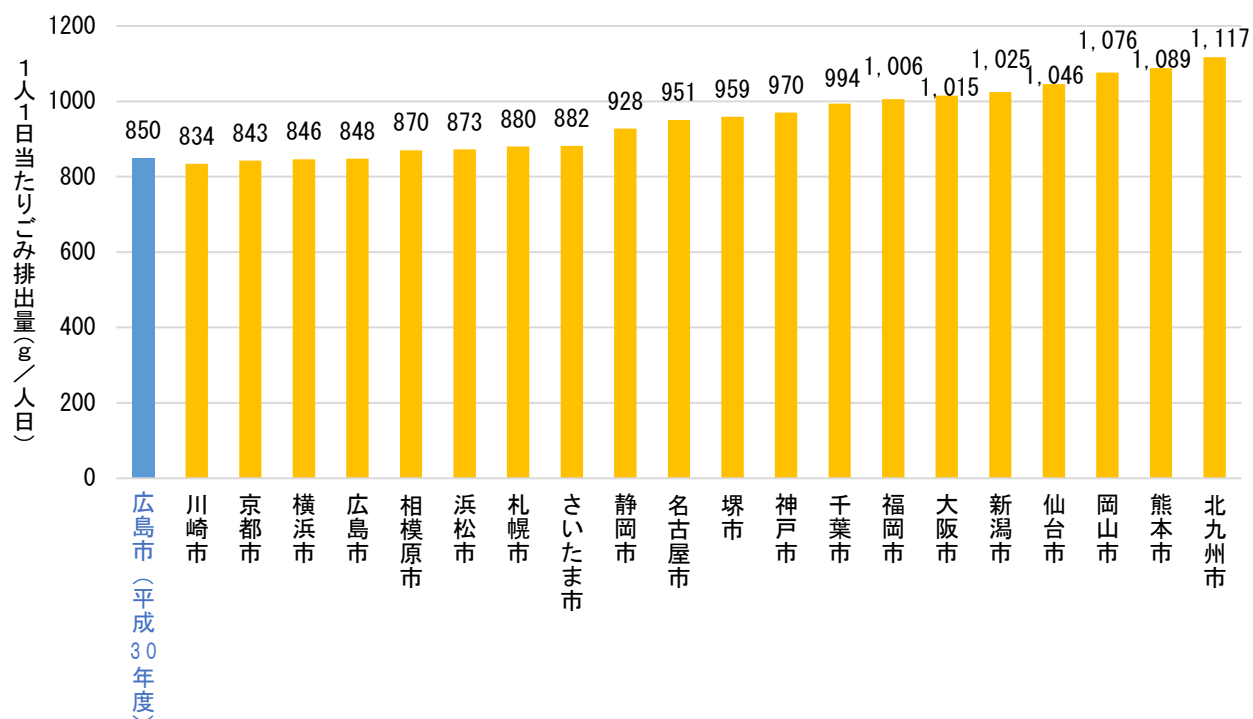
また、生ごみが概ね3割程度を占めており、期間の中で増減の傾向はうかがえない。



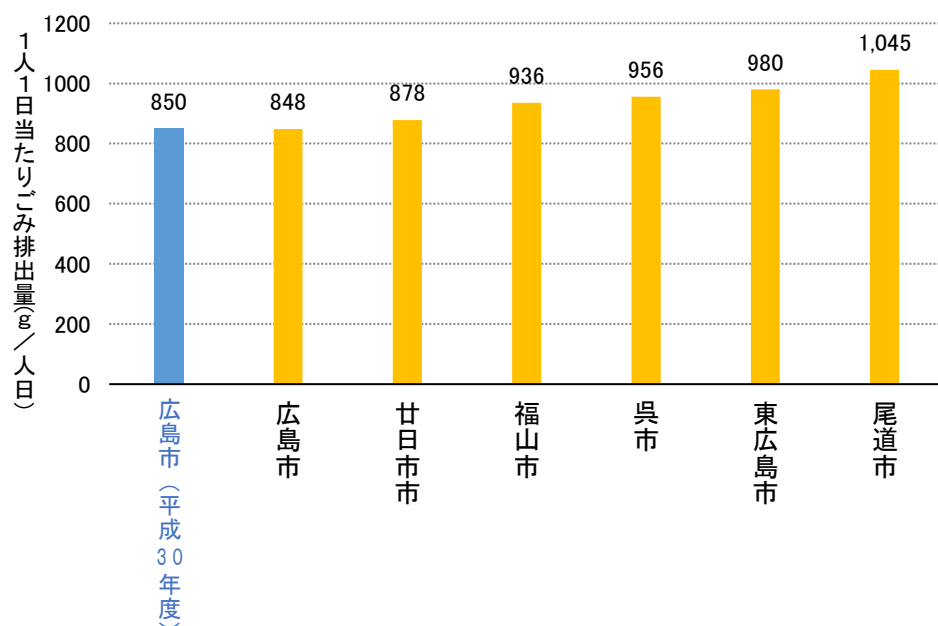
(参考) 他都市の状況

本市の1人1日当たりのごみ排出量は、平成17年度以降、政令指定都市の中で最少の水準を維持し、県内の人口10万人以上の都市の中でも最少の水準を維持してきた。しかし、平成29年度、平成30年度は増加となっている。

- ・ 政令指定都市における1人1日当たりのごみ排出量（平成29年度実績）



- ・ 県内の都市（人口10万人以上）における1人1日当たりのごみ排出量（平成29年度実績）



(資料：環境省 平成29年度一般廃棄物処理実態調査結果)